

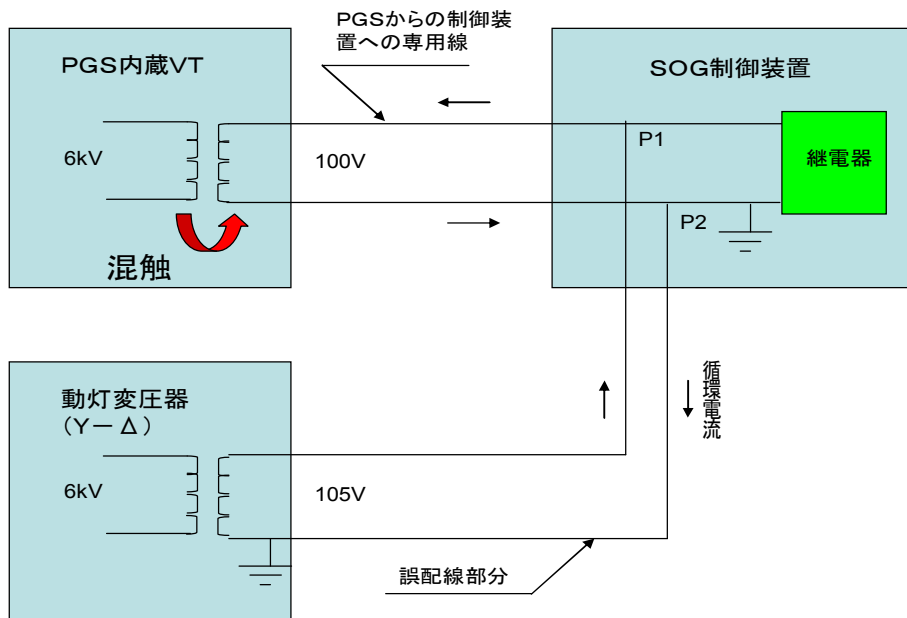
「誤配線による波及事故」

1. 事故発生事業場の概要

受電電圧6.6kV、設備容量150kVA、主任技術者選任形態 選任

2. 事故概要

工事業者用プレハブ電源を仮設するため、受電設備の工事が完了した。送電開始前にPGS（高圧交流ガス負荷開閉器）動作テスト確認し、異常が見られないため片づけ作業をしていたところPGS開放音（地絡継電器動作確認）が聞こえ停電、他需要家の停電も併せて確認。絶縁抵抗測定値を測定すると”0”になっていた。原因についてはPGS制御箱制御電源誤配線により、内蔵VT電源と外部電源が混触し、循環電流が流れ、内蔵VTを熱損させ、地絡に至った。



3. 事故の再発防止対策

PGSがVTを内蔵しているのに、外部電源がないと誤認し、確認を怠ったことが事故要因にあげられる。この事故の教訓として、次のような安全対策が望まれる。

- ①仕様等との照合をし、複数人で確認すること。
- ②現地においても送電前に再度、確認行為や実施試験を行う。

電気に携わる方の業務負担が多い中で、要所を押さえ、確認することは確実に行って頂きたい。事故には至っていないこういう事例は多く存在していると思われるので、今一度、業者任せにしているものも目を通し、安全に対するチェック体制の強化が望まれる。